青少幼年センター
ひとりから

青少幼年センター機関紙
第6号 2014・10月

真宗大谷派青少幼年センター機関紙『ひとりから』
発行日／2014年10月1日（年４回発行）
発行所／真宗大谷派（東本願寺）青少幼年センター
〒600-8168　京都市下京区室町通六条下る
TEL：075-354-3440　FAX：075-351-9599
E-mail：oyc@higashihonganji.or.jp
発行人／青少幼年センター長　木越 渉

2013年「子ども報恩講のつどい」

お寺は あそびにくるところです

青少幼年スタッフ　三品（みしな） 正親（まさちか）

近くの園児が先生たちに連れられてきます。
お寺は広く、安心できる場なのでしょう。
お寺では必ず本堂に上がってもらい、
仏さまに手を合わせてもらいます。
本堂に上がると、子どもたちは緊張し、
亀のように首を引っ込めます。
そこで、子どもたちに聞くんです。
「お寺は何しに来るところですか？」
「おまいりー」「おそうしき」…
「そうやね、それも大事なことやね。でもね、
もっと大事なことは、**お寺はあそびにくるところです**」
この言葉を聞くと子どもたちの目が変わり、
引っ込めていた首が伸びるんです。
「えっ？遊んでもいいんや」
「遊ぶとどうなる？元気になったり、
うれしくなったり、ウキウキなったりするでしょう？
大人の人もそうなるんや。
もちろん子どもの遊びと大人の遊びは違うけど、
遊ぶとうれしくなったり、元気になったりするんや」と。
私は子どもたちの目、大切にしたいと思っています。

蓮ちゃん通信 その❶

2014年11月23日㊐

子ども報恩講のつどい

「はじめての報恩講ー東本願寺で子ども会ー」

会　　場／東本願寺（御影堂、同朋会館）
お　　話／延塚知道氏（大谷大学特別任用教授）
参加対象／12歳までのお子さま、保護者・引率者
参 加 費／500円（精進カレーのお斎、記念品つき）
申込締切／11月14日㊎
※ただし、定員(200名)になり次第締め切らせていただきます
申込方法／青少幼年センターまで直接お申込ください。

※詳しくは、『真宗』9月号・10月号をご覧ください。

報恩講

金沢教区　松扉　覚

私の祖父は「仏さまの教えに出遇った人は、毎日の生活が報恩講なのです」と先生から教えられたそうです。報恩講の〝恩〟という字は『ツルの恩返し』と同じ字を書きますが、毎日が恩返しならば大変ですね。はたして報恩講とは、何かの恩返しをすることなのでしょうか。

学生時代に「君たちは育ててもらった恩を、家族に返せましたか」と質問されたことがあります。しかし、クラス全体で数人しか手をあげられませんでした。その時「手をあげた人は、恩の深さを本当にわかっていますか。一生かかっても返しきれるものではありませんよ」と先生は言いました。手をあげた人が間違っているということではなく、返したつもりでも、いただいた恩は決して返しきれない深いものだと、先生は教えてくれたのです。その大切さに本当の意味で気づいた時、初めて「返しきれない」という気持ちがおこってくるのだと気づかされました。

子どもの頃「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」とお参りしているおばあさんに「手を合わせて何をお願いしているの」とたずねると、「うらはお礼をとげにきただけや」とこたえてくれました。これは私の地元の方言で「私はありがとうと伝えに来ただけですよ」という意味です。そこに〝○○してくれたからありがとう〟とは違う、もっと深いありがとうを感じました。ご恩を返しきれない、申し訳ないという気持ちと、そのような自分にも仏さまの教えが届いたという感動が、おばあさんの「南無阿弥陀仏」という声になって現れたのだと思います。報恩とは恩を返すことではなく、このように感動して心からありがとうという気持ちが湧き上がってくることです。そして、その気持ちを忘れないように大切にすることが報恩講なのです。

子どもたちと聞く法話

このおばあさんとは、幼いころから色々なお話をしました。その中でも「あんちゃん、お金も知恵もあり過ぎるとおとろしいぞ」という言葉が、深く心に残っています。〝おとろしい〟は〝恐ろしい〟という意味の方言で、「お金や知恵に頼りすぎると、人は大切なものを見失ってしまう」ということです。楽しく生きる道や賢く生きる道ではなく、人が人としていきいきと生きる道におばあさんは出遇っておられました。

みなさんは、いきいきと生きていますか。その難しさを「素の自分が出せない」という言葉で表現してくれた、中学生のお友達がいます。私たちは自分の思い通りにならないこの世界で、ありのままに生きることができるのでしょうか。一生懸命がんばって生きることで、世界がひらけたり深まったりします。けれど、その裏側には前しか見えなくなったり、周りの思いに気づけなくなるという一面もあります。自分の力を尽くして全力投球しても、いきいきと生きることはとても難しいのです。

しかし、あきらめることはありません。そのような私たちのために仏さまがいらっしゃるのだと、親鸞さまは教えてくださいました。親鸞さまがお書きになった『正信偈』という詩の中に「煩悩障眼雖不見　大悲無倦常照我」という言葉があります。「人は色々な思いが邪魔をして光を見ることができないけれど、それでも仏さまは私を照らしてくださいます」という意味です。同じいのちを生きているはずなのに、自分の気持ちによって楽しいだけでなく辛くなってしまう時もあります。だからこそ、どんな時でも光を感じられるように、いのちを喜べるように仏さまの教えがあるのだと、親鸞さまはあきらかにしてくださいました。

報恩講にはみんなで集まって『正信偈』のお勤めをし、親鸞さまの教えを聞きます。そして、生きていく中で本当に大切なことを見失わないように、その教えに自分の生き方を確かめるのです。

蓮ちゃん通信 その②

あかほんくん勤行集

子ども会のお勤めでぜひお使いください。子ども報恩講でもお使いいただけるように和讃も同朋奉讃で2種類（「弥陀成仏のこのかたは」・「弥陀大悲の誓願を」）、御文も2種類（「末代無智」・「聖人一流」）掲載しております。

※お求めは、青少幼年センターまでお問合せください。

価格 200円

ひとりからはじめる
イベントレシピ

正信偈をお勤めしよう!!

報恩講には、子どもたちと一緒に声を出して正信偈のお勤めをしたいものです。正信偈は、過去・未来・現在をつらぬき、老若男女すべてを包み込む、遠く三国を超えての響きです。

こんな練習方法もあります。

子どもたちと輪になってお勤めの練習をしてみましょう。他の人の顔を見ながら、声を聞きながらお勤めをすることによって、子どもたちも集中でき、自然と声も出てきます。教えを「聞く」ということも自然と身についてくるのではないでしょうか。

ワンポイントアドバイス

「子どもたちに正信偈のお勤めは難しいのでは？」

そんなことはありません！ 子どもたちは数回一緒にお勤めするだけで、すぐに覚えてしまいます。

子ども報恩講の式次第（例）

一、総礼
一、真宗宗歌
一、ちかい
一、正信偈草四句目下（同朋唱和）
　　念仏和讃（同朋奉讃）
　　回向
一、御文

※その後、法話（紙芝居などでも可）・ゲーム・お斎など

一、恩徳讃

「ちかい」を唱和することはもちろん、「三帰依文」を一緒に唱和するのもよいでしょう。

「あかほんくん勤行集」には、「弥陀大悲の誓願を」の和讃も掲載しています。もちろん、三淘でのお勤めでもかまいません。

一字下げの読み方をしなくても、みんなで声をそろえて拝読する方法もあります。「あかほんくん勤行集」には、「聖人一流」の御文も掲載しています。

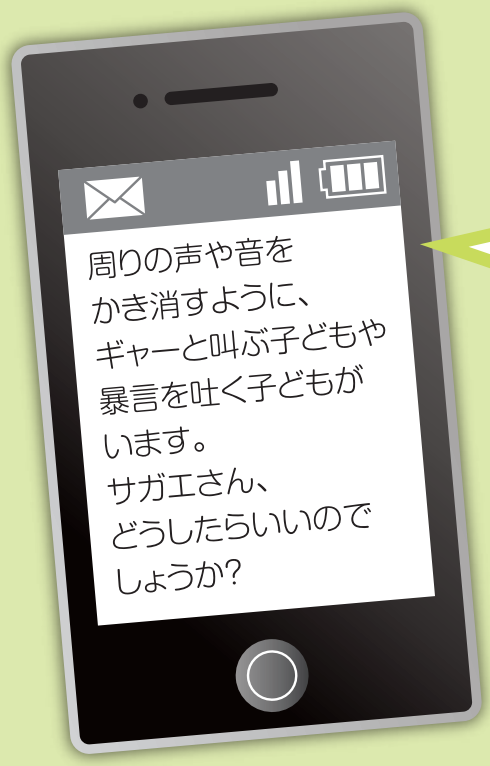
お斎は…
報恩講に「いただきます」の意味について考えることも大切なことではないでしょうか。

ワンポイントアドバイス

子ども報恩講には、普段と違った特別な記念品を用意してみてはいかがでしょうか？お華束などお供え物のお下がりや駄菓子などに加えて、青少幼年センターで取り扱っている東本願寺キャラクターの記念品などをご利用ください。

Re:サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとを
サガエさんにお尋ねする
コーナーです。



子どもの声

子ども会をはじめると直面することのひとつが、子ども会の進行や流れをかき乱す叫び声や、「どうして?」とおもうような乱暴な言葉を吐く子どもとの出会いです。全体の進行がとまりますから、それを無理に制止すると、後味の悪さが残ります。子ども会の困りごとですね。

では、ごいっしょに考えましょう。このようなことが起きるのは、子ども会の進行さんと参加した子どもの気持ちがズレているか、または、このような表現で注意を引こうとしているか、あるいはおとなを「試している」のかもしれません。このとき、子どもがおさまることを期待して無視すると、ますます激しくなることがあります。また、強い態度にでると、タイミングが良ければときには有効ですが、次第に効力はなくなります。このことで子どもと真正面から衝突するとお互いに傷ついてしまいます。これについては、これといった秘策はありません。そのつど、すこし余裕をもって子どもの逃げ道をつくって、あなたの雰囲気と言い方で「困る」ということを伝えるのがいいとおもいます。タイミングはそのつどが大事で、あとからでは効力がありません。

この問題を、角度を変えてみてみると、子ども会の「場」を開くわたしたちが子どもから問われる、大事なはたらきかけとして考えてはいかがでしょう。子どものパワーにたじろぐ方、強く制止して後味の悪さを味わう方、どうしてよいか迷う方、そのことでココロが動揺する方とさまざまですが、わたしたちの何かを揺り動かしていることは事実です。「やっかい」と軽く通過せずに「問い」として持ってみてはいかがでしょう。

佐賀枝 夏文（さがえ なつふみ）

1948年生まれ。大谷大学修士課程修了。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少幼年センター非常勤嘱託。カウンセラーネーム「サガエさん」です。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください!

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

編集後記

◎今年も、報恩講の季節となりました。子どもたちに「報恩講」・「正信偈」・「親鸞さま」をどう伝えようかと、頭を抱えてしまいがちです。まずは自分の言葉で「今日、みんなで、ここに集う理由」を語りながら、親鸞さまの呼びかけを子どもたちと聞いていきたいと思います。(編集長)

◎寺生まれではない私にとって、お内仏で勤まる報恩講に祖父母と手を合わせたことが真宗の原体験として残っています。仏法のご縁はどこで生まれるかわかりません。お寺での子ども会だけでなく、月参りや御取越、葬儀やご法事等、一つ一つの仏事の場で子どもと語り合えたらと思います。子ども報恩講のつどいでの延塚先生のご法話も楽しみにしながら、次号は十二月一日発行予定です。―祖父と孫影重なりし御取越―(青セ主幹)

蓮ちゃん通信 その3

子ども会情報募集中!

“お寺につどう子どもたち”の写真や動画など子ども会の内容をお寄せください。

宛先は、「郵送」または「E-mail」
oyc@higashihonganji.or.jp
「『ひとりから』子ども会情報係」まで